

情報公開文書

Version 1.2: 2015 年 7 月 21 日

患者さんへ ～「スペインかぜ病歴からみる臨床疫学的研究」での臨床データの研究
利用に関するお願い～

倫理委員会承認番号：NCGM-G-001814-00

平成 27 年 7 月 21 日

インフルエンザは人類最大の人獣共通感染症であり、何十年毎に出現してくる新型インフルエンザによる被害は極めて大きいことが知られています。特にスペイン風邪は、記録に残っているインフルエンザパンデミック（世界的流行）の中で、特に被害が大きく死亡者は全世界で約 4000 万人とも言われています。当時は、インフルエンザウイルスはまだ発見されておらず、抗生物質さえありませんでした。スペイン風邪の患者さんがたの病状や臨床経過を詳しく調べ、臨床疫学的に検証することは、「新型インフルエンザ」という疾患の自然経過を観察することに繋がり、今後の新型インフルエンザ対策において有用な情報を提供してくれます。

- ・ 本研究の目的：新型インフルエンザという疾患（重症化）の自然経過を明らかにし、この病気の重症度判定方法や、限られた医療資源の下での治療方法について検討し、将来の新型インフルエンザ治療に役立てることです。

- ・ 本研究の方法：当センター所有のスペイン風邪診療録(1918-1920 年当時)から得られた臨床情報を使って実施する後ろ向き観察研究です。研究対象は、当時の旧陸軍病院に流行性感冒（インフルエンザ）で入院し、診療録の解読が可能だった全症例 470 例です。得られた臨床情報（患者の年齢や性別、熱や呼吸回数などの身体所見、入院期間など）を用いて、重症度判定、肺炎及び疾患の重症度の予測診断の開発、重症化要因の解明を目指します

これらの臨床データは通常の診療で記録されたものですし、そもそも対象となる患者さん方は既に御逝去なさっておられる関係で、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。

お問い合わせ先：

国立国際医療研究センター病院 呼吸器内科

泉 信有

162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

電話：(03)3202-7181 (代)

Fax：(03)3207-1038